

方剂名

効能

生薬組成

書籍

主治および証

病機

方意

固表剤 固表止汗剤 1

ぎよくへいふうきん
玉 屏 風 散

益気固表止汗

黄耆 18g・白朮 6g・防風 6g

粉末にし1日2回6~9gずつ服用する。水煎し服用してもよい。

世医得効方

<主治>

衛陽不固

悪風、自汗、顔色が白い、風邪を引きやすく治りにくい、舌質が淡、舌苔が薄白、脈が無力などを呈す。

<病機>

気虚で衛陽が不足して固表できない状態である。

衛陽が不足して温煦ができないので悪風があり、腠理が空疎で営陰を斂守できないために津液が外泄して自汗（少し歩くと汗が出る）がみられる。外邪の侵襲を防御できないので風邪を引きやすく、駆邪外出の能力が低下しているために治りにくい。息切れ、顔色が白い、舌質が淡、舌苔が薄白、脈が無力は、気虚を示している。

<方意>

益気固表によって止汗する。

益気固表の黄耆が主薬で大量に用い、健脾益気の白朮で補佐し、気血の化源を補充して衛陽を充盛させる。更に、走表して風邪を祛除する防風を配合すると、黄耆・白朮は、防風を得て固表しても邪を留めず、防風は、黄耆・白朮を得て祛邪しても傷正せず、補中有散、散中有補の効果がある。全体で益気固表、祛邪、止汗の効能

が得られる。

<参考>

本方（玉屏風散）と桂枝湯は表虚自汗に対する方剂であるが、玉屏風散は固表止汗に働くので衛虚不固の自汗に適し、桂枝湯は調和営衛、解肌に働くので風寒表虚証、あるいは雑病の営衛不和による自汗に適する。